

〈教科マネジメントⅡ 公民〉

「学びに向かう力」を育む「公共」の授業づくり

—— 公民科と家庭科のクロスカリキュラムを見据え、

SDGsの視点を取り入れた単元構想を通して（第1学年） ——

沖縄県立北山高等学校教諭 山 川 康 平

I テーマ設定の理由

近年、国連で定められたSDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まり、政府のみならず自治体や企業においてもその解決に向けた取り組みが加速している。日本では選挙権年齢や成年年齢の引き下げにとともに、高校生にとって積極的に国家や社会に参画する環境が整いつつあることから、SDGsに代表されるような現代社会の諸課題をより一層、自分事として考えることが求められる。そして、社会の一員として他者と協働しながら課題を解決し、学んだ知識を社会全体に生かし、新たな価値を創造していくことが期待されている。

このような中、平成30年3月に告示された『高等学校学習指導要領』（以下、『要領』）において、公民科では「公共」が新設必修履修科目として位置付けられた。変化の激しい社会をよりよく生き抜き、そのための判断基準となる知識や技能を身に付け、主体的に社会参画や政治参加していくことを見据えた科目である。『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編』（以下、『解説公民編』）では、「公共」は「自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う科目」と示されており、その使命は重責を担う。特に「学びに向かう力」については、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、公共的な空間に生き国民権を担う公民としての自覚を深めることと示されている。

現勤務校においても、「自主自律」「友愛協同」を校訓に掲げ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動できる人間の育成を図ることを学校教育目標としている。しかし、これまでの私の学習指導においては、この目標を意識して授業づくりを行っていたとは言い難い。他教科との横断的な指導の視点が弱く、また教科書の内容を一方向的に教えることが多く、協働的な学びを通して、新たな課題を見つけさせ次の学習に向かう力を育むことが十分ではなかった。さらに、学校教育目標の共通理解を行ってはいるが、計画的に授業づくりに取り組んでいるとは言い難い現状である。こうした状況を改善するためには、各教科で習得した基本的な知識を様々な場面で活用させながら、協働的な取り組みを通じ新たな課題を見いださせる活動を実施し、学校教育活動全体を通して何のために学ぶのか、学んだことをどう生かすのかという「学びに向かう力」を育むことが肝要である。

よって本研究では、公民科と親和性の高い家庭科とのクロスカリキュラムを見据えた授業づくりを行い、「学びに向かう力」の育成を図っていききたい。具体的には、新設された「公共」の授業を想定し、現行の履修科目である「現代社会」の授業に家庭科「家庭総合」の授業を関連させ、SDGsの視点を取り入れた授業づくりを行う。SDGsで指摘されている課題の解決に向けて考察、構想し、その妥当性や効果、実現可能性などを視野に説明や議論をさせたりする。このように、SDGsの視点を取り入れた公民科と家庭科のクロスカリキュラムを見据えた授業を展開することで、他者と協働しながら実現社会にみられる課題解決に挑戦する意欲、そしてよりよい社会を築こうとする態度、すなわち「学びに向かう力」を育むことができると考え、本テーマを設定する。

〈研究仮説〉

公民科の新設必修履修科目「公共」を視野に「現代社会」において、家庭科「家庭総合」とのクロスカリキュラムを見据え、SDGsの視点を取り入れた単元構想を行い、実践を繰り返すことで、「学びに向かう力」が育まれるであろう。

II 研究内容

1 「公共」と「学びに向かう力」について

公民科では『要領』において、図1のように「公共」が新設必修科目として位置付けられた。「公共」は、『解説公民編』によると、「我が国が厳しい挑戦の時代を迎える中で、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う科目」として設置したと示されている。本研究では「公共」の目標と育成すべき3つの資質・能力のうち、「(3) 学びに向かう力, 人間性等」に着目し、特に「学びに向かう力」を育む授業づくりを目指していく。その中でもアとイに焦点をあて(図2)、これを本研究における「学びに向かう力」を図った生徒として捉え、研究を進めていく。これは、「持続可能な社会の担い手」の視点や本校の学校教育目標にも合致しており、本研究では、この「学びに向かう力」を育むことで、学校教育目標の具現化にもつなげていきたい。具体的には図3にまとめた「公共」の内容構成A～Cの流れを授業計画に位置付ける。そしてまず、大項目Aでは、社会に参画する際に選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的原理を理解させる。次に大項目Bにおいて、大項目Aで身に付けたことを活用させ、法や政治及び経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な資質・能力を育成させる。そして、大項目Cにおいては「公共」のまとめとして、生徒自ら課題を設定し、課題の探究に必要な情報を収集し、読み取り・分析を行い、課題の解決に向けて協働して考察、構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。本研究では、大項目Bの学習において、大項目Cの取り組みを一部取り入れた実践を目指す。さらに、これら一連の授業展開において公民科と親和性の高い家庭科とのクロスカリキュラムを見据えた授業展開に取り組むこととする。

2 公民科と家庭科のクロスカリキュラムについて

『解説公民編』によると「公共」は「家庭科、情報科や総合的な探究の時間等と連携」し、「自立した主体として、他者と協働しつつ国家・社会の形成に参画し、持続可能な社会づくりに向けて必要な力を育む共通必修科目」として設置されたと示されている。本校では、1学年に公民科目として「現代社会」を設定しており、本研究では「現代社会」の授業において「公共」を視野に授業を展開していく。この「現代社会」に同学年に設定している「家庭総合」の学習内容に関連する教科等横断的な取り組みを行い、学んだ知識や技能を活用する協働的な活動を取り入れ、現代社会にみられる諸課題の解決策を多面的・多角的に考察し、構想させる。『解説公民編』では、「家庭科に属する各科目の内容のうち、生涯の生活設計、自助、共助及び公助の重要性、消費行動における意思決定や契約の重要性、ライフスタイルと環境などに関する部分との関連を図る必要がある。」と示されている。これを踏まえ本研究では、「公共」の内容構成に、「現代社会」と「家庭総合」の学習内容に関連される項目を位置付けた一覧表を作成する(図4)。その際、両科目の学習内容と繋がり深いSDGsの視点を取り入れていく。

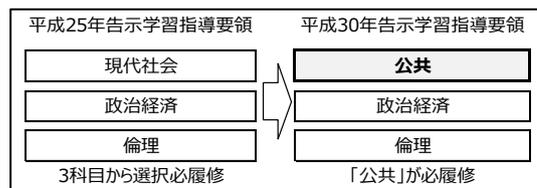


図1 公民科の科目について

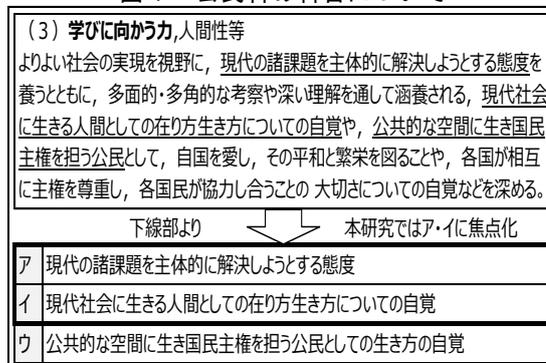


図2 公民科の「学びに向かう力」

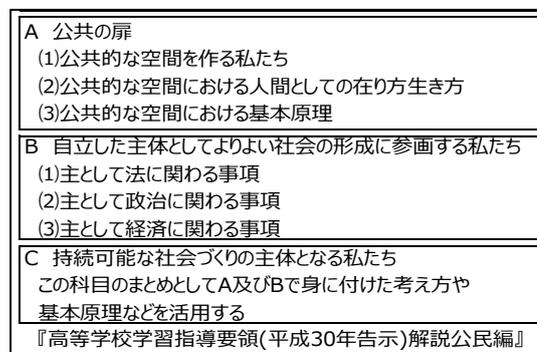


図3 「公共」の内容構成

「公共」の内容構成			「現代社会」	「家庭総合」	関連するSDGs
大項目	中項目	単元名	単元名	単元名	
A	(1) 公共的な空間を作る私たち		青年期の意義と自己形成の課題	青年期の課題	G 5
	(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方				
	(3) 公共的な空間における基本的原理	例① 人間の尊厳と平等 個人の尊厳	現代社会における青年の生き方	見直される性別役割分業意識	G5
B	(1) 主として法に関わる事項	例② 契約と消費者の権利、責任	基本的人権の保障と新しい人権	婚姻、夫婦別姓等	G5
	(2) 主として政治に関わる事項		消費者保護と契約	現代の消費社会 消費者の権利と責任	G12
	(3) 主として経済に関わる事項	雇用と労働問題	雇用と労働問題	ワークライフバランス 雇用形態の変化	G 8
		財政の役割と社会保障	社会保障と国民福祉	社会保障の考え方	G 3
	例③ 経済のグローバル化	国際経済のしくみと貿易の拡大	これからの衣生活	G 8	
C	この科目のまとめとしてA及びBで身に付けた考え方や基本原理などを活用する	・地球環境問題 ・資源、エネルギー問題 ・生命倫理 ・情報・国際社会の課題	・税と社会 ・東日本大震災後のエネルギー問題をめぐって ・人口問題と私たちの未来		

図4 「公共」(現代社会) × 「家庭総合」 × SDGsの一覧表

3 SDGsについて

(1) SDGsとは

2015年の国連において、現代社会における諸課題の解決に向けて、全世界で取り組むべき共通認識として『持続可能な開発のための2030アジェンダ』が国連で採択された。そこで定められたのがSDGs(持続可能な開発目標)である。貧困や環境、経済や資源など全世界で課題解決に向けた17の目標(ゴール)と各目標を達成するための具体的な169のターゲットが示され、2030年までに達成することが求められている(図5)。また、『要領』においても、急速な国際化や情報化、技術革新など、変化の激しい社会を見据えて、これから子供たちが生きていくために必要な資質や能力等の育成を見据えて改訂され、「持続可能な社会の担い手」を育成することが示されている。本研究では、この「持続可能な社会の担い手」の姿を図2のア・イと同義と捉え、その姿を育成するための視点としてSDGsを取り入れる。現代社会の課題を扱う公民科と家庭科の学習内容は自ずとSDGsと関わる内容が多く含まれている。よって、SDGsの視点を取り入れた公民科と家庭科のクロスカリキュラムを見据えた授業を実践することで、持続可能でよりよい社会を構築するため、他者と協働しながら現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度、すなわち「学びに向かう力」を育むことに有効であると考え。

SDGs17の目標	ターゲット数
1:貧困	7
2:飢餓	8
3:健康な生活	13
4:教育	10
5:ジェンダー平等	9
6:水	8
7:エネルギー	5
8:雇用	12
9:インフラ	8
10:不平等の是正	10
11:安全な都市	10
12:持続可能な生産・消費	11
13:気候変動	5
14:海洋	10
15:生態系・森林	12
16:法の支配	12
17:パートナーシップ	19

図5 SDGs17の目標と169のターゲット

(2) SDGsの視点を取り入れた学習について

本研究では、『沖縄県立総合教育センター平成31年度調査研究報告書』で示された「世界史×SDGs記入シート」(図6)を援用し、生徒の思考過程を表現させ可視化する。これは、学習のまとめにおいて、本時の学習内容がSDGsのどれに該当しているか選択し、その根拠を記述することで、現代社会の諸課題を歴史的に考察する力を育むシートである。また、本研究ではこのシートの理念に堀哲夫(2020)が提唱する図7の「一枚ポートフォリオシート」(以下、OPPシート)の概念を取り入れ、図8のシートを作成した。まず、単元を貫く問いのもと、Aの欄に単元最初の考えを記入させ、診断的評価を行う。シートの左側には本単元に関連するSDGsのアイコンとそのターゲットを明記しておき、毎時の振り返りにおいて本時の学習



図6 世界史×SDGsシート

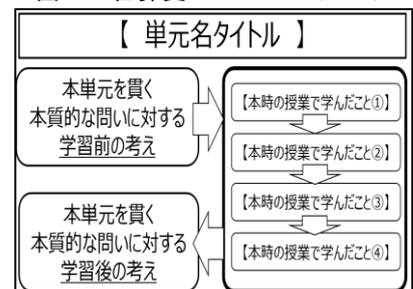


図7 OPPシートの例

内容に関連するターゲットを選び、その根拠を自分の言葉で記述させる。そして、本単元の最後にBの欄へ単元を貫く問いに対する考えを再考察させ、総括的評価を行う。このように、1単元で1枚のポートフォリオシートを用いることで生徒の思考過程の変容が可視化されるだけでなく、教師にとっても

SDG s 12ターゲット		本時の問いに対するあなたの考え	
1	「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み」を実行しよう	【本時の問い】	
2	限りある天然資源を、できるだけ使わずに済むようにしよう	SDG s ターゲット	
3	1人あたりの食品廃棄を半分に減らそう		
4	化学物質や有害廃棄物の放出を大幅に減らそう		
5	廃棄物の発生を、3Rで大幅に減らそう	【本時の問い】	
6	大企業は率先して、サステナブルな取り組みと発信を	SDG s ターゲット	
7	まずは国から、みんなのお手本となる買い物の仕方を		
8	持続可能なライフスタイルがどんなものか、みんなで理解しよう		
9	これらの取り組みを開発途上国が実践できるように支援しよう	【本時の問い】	
10	観光業の地域への貢献度を、見える化する手法を開発しよう	SDG s ターゲット	
11	無駄な消費につながる、非効率な補助金はなくしていこう		
学習内容に関連するターゲットを選ぼう！			

図8 「SDG sシート」(SDG s 12バージョン)

形成的評価として見取ることが容易になると考えられる。この図8を「SDG sターゲット記入シート」と名付け(以下、「SDG sシート」)、公民科と家庭科を関連させた単元において繰り返し用いることでPDCAサイクルも図られると考える。

併せて、「SDG sシート」を用いる過程で改良を重ねていきながらその有用性を検証していく。このように本研究においては、公民科の新設必修科目「公共」を視野に「現代社会」において、家庭科「家庭総合」とのクロスカリキュラムを見据え、SDG sの視点を取り入れた単元構想を行い、実践を繰り返すことで、「学びに向かう力」が育まれると考える。

III 研究方法

1 検証授業に向けた職員研修

本研究を進めるにあたり、本校公民(社会)科及び家庭科の職員との連携は必要不可欠である。本研究の年間指導計画について確認・検討を当該職員と共有した。家庭科職員からは、「家庭科においても公民科との連携が求められているのでぜひ一緒に取り組みたい」との言葉があった。今後は、図4を公民科、家庭科職員で共有し、年間指導計画の確認・検討を行い、検証授業を構想していく。特に、家庭科におけるSDG sとの関連性や図8について共有していく。

2 検証授業について

図4の一覧表をから、表1のような検証授業が考えられる。また、検証授業の前には、SDG sに関する学習として「SDG s入門講座」を実施する。

表1 検証授業の例(図4より)

	「公共」の単元名	「現代社会」の単元名	「家庭総合」の単元名	関連するSDG s	時数
例①	人間の尊厳と平等・個人の尊厳	現代社会における青年の生き方	見直される性別役割分業意識	目標5	3
例②	契約と消費者の権利・責任	消費者保護と契約	消費者の権利と責任	目標12	4
例③	経済のグローバル化	国際経済のしくみと貿易の拡大	これからの衣生活	目標8	4

IV 指導の実際と仮説の検証

1 オリエンテーション及びSDG sに関する学習について(7月1日~7月16日)

この学習は生徒の実態把握とオリエンテーション及び、SDG sに関する内容に加えて、「公共」における見方・考え方を理解する学習を設定した(表2)。この学習を設定することで、生徒の実態を把握し、SDG sに関する基本的な知識等を学び、「公共」を学ぶうえで必要な基礎的な考え方を身に付けさせることを目指し、今後の実践に向けての足場づくりとする。

表2 オリエンテーション及びSDG sに関する学習計画表

時	学習項目	主な学習内容
1	実態把握	「公共」の学習目標やねらい、授業の流れを理解する。
2	SDG s入門講座	他者と協働しながらSDG sの内容や取り組み状況を理解する。
3	「公共」の見方・考え方について	選択・判断の手掛かりとなる「結果」と「義務」の考え方について理解する。

(1) 第2時：SDGsについて

この学習はSDGsについて関心を持ち他者と協働しながらSDGsの内容や取り組み状況を理解することを目標として設定した。授業展開の前半部分では、SDGs 17の目標を「環境」「経済」「社会」に分類するグループ学習を行い（図9）、他者と意見を交わしながらSDGsが掲げる現代社会の諸課題について知る活動を取り入れた。授業の最後には、日本、沖縄、沖縄北部において優先して取り組むべき課題について考えさせた。生徒の感想（表3）からは、SDGsを知るだけでなく自分自身の生活を振り返りながら自分には何ができるとSDGs 17のゴールを自分事として捉え課題を見いだそうとする姿がうかがえた。



図9 SDGsに関する学習

表3 SDGsに関する学習における生徒の感想（一部抜粋）

- ・日本はもっとジェンダー平等に目を向けるべきだ。
- ・地域の海にごみが散乱している現状を見て、守り続けたいので目標14が印象に残った。
- ・目標9（産業と技術革新の基盤をつくろう）を達成できれば今帰仁村の雇用も増えて村から人口が減らないと思う。
- ・今帰仁村を活性化させるために商業施設等が必要だと思ったので目標9が村の課題だと思う。

(2) 第3時：「公共」における見方・考え方について

『解説公民編』では、「公共」における見方・考え方として、「現代社会」で示された幸福・正義・公正の枠組みに加え、公正に選択・判断する際の手掛かりとなる考え方として「結果」と「義務」の2つが新たに示された。よって、第3時「公共的な空間における人間としての在り方生き方」の授業では、これから「公共」を学ぶにあたり必要となる社会的な見方、考え方について理解させることを目標とし設定した。具体的には選択・判断の手掛かりとなる行為の「結果」である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの「義務」を重視する考え方について、身近な事例を自分事として捉え、その判断基準となる考え方について思考するプロセスを育むことを目標として実践した（図10）。

<p>①発問し本時の問いにせまる</p> <p>本時の問い 【公正に判断するために必要な考え方は？】</p> <p>身近な事例をもとに公正な判断基準とは何かについて考え、本時の問いを設定する。</p>	<p>②「結果」と「義務」を考える</p> <p>【〇〇医大・入試女子差別問題】 入試において女子受験生のみ一律に減点していた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【病院側の主張】 女性は結婚や出産で職場を離れる。医療現場の人手不足を考えると男性を採用したい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【受験生の主張】 入学募集要項に性別のことは書かれていない。頑張って勉強した。採点は男女平等に行うべきだ。</p> </div> </div> <p>「結果」と「義務」から考えてみよう!</p> <p>提示されたお題に対し「結果」と「義務」いずれを優先する考え方なのかを選択・判断する。</p>	<p>③各部活動の主張を読む</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【野球部】部員が多いからグラウンドの使用時間を増やさないで、一人一人の技術を向上させることが難しい。毎日使用させてほしい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【駅伝部】高い実績を保つためには、相当の練習時間と場所が必要。部活動の実績を考慮して優先的にグラウンドを使用させてほしい。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【陸上部】実績や部員数にかかわらず、すべての部活動は学校の活動なので、優劣はない。だから、すべての部活動が公平に活動できる機会が保障されるべきだよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【ホッケー部】他の部活はグラウンドでなくても練習場所はあるよね。ホッケーはゴールがグラウンドにしかないからグラウンドで練習するしかないんだよね。</p> </div> </div> <p>各部活動の主張の根底にある考え方が「結果」と「義務」のどちらを優先しているかを個人で考える。</p>
<p>④グループワークで合意形成を図る</p> <p>③を踏まえグループで考えを共有し合意形成を図る。</p>	<p>⑤全体発表で考えを共有する</p> <p>根拠をもとにグループでの考えを発表し、多様な考え方に触れる。</p>	<p>⑥本時の問いに対する自分の考え</p> <p>物事を「公正」に判断する為には、結果や義務の考えをもとに互いの対立などが起こらないように解決策を考えることで公正な判断になると思います。</p> <p>どちらの意見が正しいというよりも、互いに納得できるような考えを出すのが一番良いと思いました。</p> <p>「結果」と「義務」という視点を用いて本時の問いに対する自分の考えを述べている。</p>

図10 表2の第3時「公共」における見方・考え方についての様子

2 検証授業の例②における消費者教育について（10月18日～10月22日）

表4 「公共」検証授業の例②の単元構想シート（WS＝ワークシート・GW＝グループ学習のこと）

単元名		第2編 第1章 契約と消費者の権利・責任	
単元の目標 【学びに向かう力、人間性】		現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	
単元を貫く問い（FQ）		よりよい社会の実現のために、私たちはどのような消費行動を行うべきか。	
本単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】（本単元におけるB評価の生徒の姿）			
現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			
第1時	題材名	「桃太郎」における桃太郎とサルとの間の契約 【参考教材『未来を切り拓く法教育』法務省】	
	本時の目標	〔態〕昔話「桃太郎」を素材にした教材を通して、契約の基本的な原則である「契約自由の原則」とその修正について理解を深め、グループワークを通じて契約の意義や課題を主体的に追究しようとする。	
	本時の問い	よりよい社会の発展のために、あなたはどのような消費行動を行うべきか。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	契約に関するクイズ	「家庭総合」で学んだ契約について復習する。
	展開①	「スマホの利用規約」×自分	スマホに関する事前アンケートの結果を共有する。
	展開②	「桃太郎とサルの契約トラブル」	「Yes」「No」カードを使った意思決定表示ゲーム「クロスロード」をGWで行い契約トラブルについて考える。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	SDG s シートに本時の学習内容と関連のある SDG s ターゲットを選び、FQに対する考えを記入する。
第2時	題材名	100円ショップから世界を考える 参考教材【『身近な事から世界と私を考える授業』DEAR】	
	本時の目標	〔思〕100円ショップを題材に「便利さ」「豊かさ」の裏側にある世界の課題を見出し、普段の消費行動を見直しながら、その課題の解決に向けて協働して考察、構想したことを論拠を持って表現すること。	
	本時の問い	生産者にも適正な配分が確保されるために、消費者としてできることは何か。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	前時の復習	振り返りシートを見直す。
	展開①	「100円ショップ」×自分 買い物をするときの基準とは？	・B B Qに必要なものを付箋紙に書き出し考えを共有する。 ・買い物をする時に重視していることをGWでランキングする。
	展開②	割り箸に関するクイズ 100円ショップの秘密	・スライドを見ながらクイズの答えをWSに記入する。 ・割りばしに関するコラムを読み感じたことをWSに記入する。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	SDG s シートに本時の学習内容と関連のある SDG s ターゲットを選び、本時の問いに対する考えを記入する。
第3時	題材名	消費者の8つの権利と5つの責任 参考教材【『消費者の8つの権利と5つの責任』高知県立消費生活センター】	
	本時の目標	〔思〕消費者の行動が社会を変える力を持っていることに気付き、消費者の責任や行動することの重要性を理解し、人や社会、地域、環境に配慮した消費行動について、他者と協働しながら多角的、多面的に考察、構想したことを論拠を持って表現すること。	
	本時の問い	よりよい消費者となるために自分にできることは何か。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	前時の復習	振り返りシートを見直す。
	展開①	「消費の社会的意味」 （動画①）	本物のDVD、二セモノのDVDを買うときの長所、短所を「個人」と「社会」それぞれの視点で考え、GWで共有する。
	展開②	「消費者市民社会を目指して」 （動画②）	身近な消費行動がどのような権利と責任に関係しているかを考え「消費行動の事例」と関係する「消費者の権利・責任」を選択しWSに記入する。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	SDG s シートに本時の学習内容と関連のある SDG s ターゲットを選び、本時の問いに対する考えを記入する。
動画①②：静岡県の消費者教育ポータルサイトなるほど！消費者教育 映像教材「知り・考える 消費者市民社会」より			
第4時	題材名	エシカル消費って何だろう 参考教材【「みんなの未来にエシカル消費」消費者庁】	
	本時の目標	〔態〕環境に配慮した生活について考察し、単元の学習を振り返り、よりよい社会の実現に向け、自立した消費者として課題を主体的に追究したり解決したりしようとする。	
	本時の問い	自立した消費者になるために必要なことは何か。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	前時の復習	振り返りシートを見直す。
	展開①	「商品」×「地球的課題」	・買物と少しでもつながりがあると思う写真を線で結ぶ。 ・エシカル消費のポイントをWSに記入する。
	展開②	「10の消費行動」×エシカル消費	個人で10の消費行動を「人・社会」「環境」「地域」に分類した後、GWで共有する。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	SDG s シートに本時の学習内容と関連のある SDG s ターゲットを選び本時の問いに対する考えを記入しFQに対する考えを再考させる。

本単元では、消費者教育を題材として教科等横断的な取り組みを行った。はじめに両科目で取り扱う学習内容を共有し、「家庭総合」においては、「よりよい生活を営むため」の視点として、消費行動の意思決定の重要性について具体的事例を示しながら、契約や消費者保護法などに関する授業計画を実施した。それを「公共」では「よりよい社会を実現させるため」の視点と位置付け、表4のような単元構想シートを作成した。具体的には、単元を貫く問い（以下、FQ）を「よりよい社会の実現のために、私たちはどのような消費行動を行うべきか」と設定し、4つの消費者教育に関する教材を活用する単元をデザインした。

(1) 第1時：「桃太郎とサルとの契約について」より

この学習では「未来を切り拓く法教育」（法務省）の教材を活用した。桃太郎とサルが交わした契約内容を題材とし、「家庭総合」で学んだ契約の基本的な原則である「契約自由の原則」とその例外についてグループ学習を通じて理解を深め、契約の意義や課題について主体的に学ぶことを目標として設定した（図11）。授業の導入では、生徒の身近なスマホの事例から本時の問いを引き出し、学習内容の見通しをもたせた。そして、防災カードゲーム「クロスロード」を取り入れたグループ学習を実践した。表5の生徒の感想からは、判断することが難しい契約トラブルについて、サルや桃太郎の立場に立って考えることで、「もし自分だったら」と主体的に考察している様子がうかがえた。また、グループ学習を通して他者の多様な意見や考え方に触れることとなり、正解ではなく納得解を持つようとする態度を養うことができた。

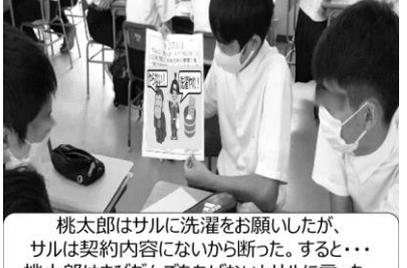
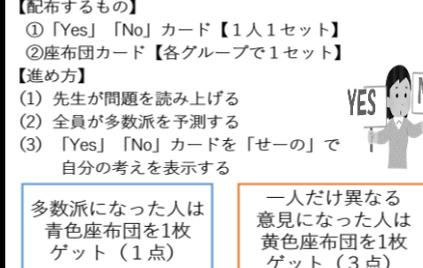
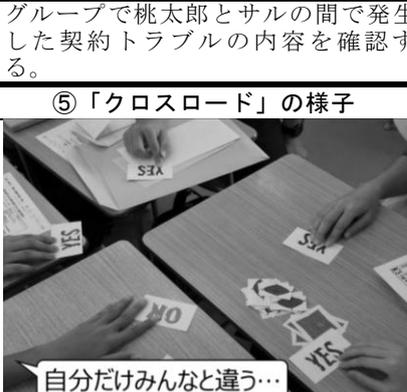
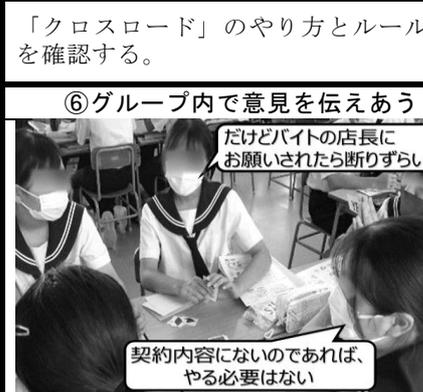
①発問し本時の問いにせまる	②契約トラブルの例	③「クロスロード」ルール説明
 <p>生徒の身近な事例から「契約」というキーワードを引き出し、本時の学習内容の見通しをもつ。</p>	 <p>グループで桃太郎とサルの間で発生した契約トラブルの内容を確認する。</p>	 <p>「クロスロード」のやり方とルールを確認する。</p>
<p>④契約の実効力について</p> <p>サルは桃太郎の服を洗濯する必要がある。</p> <p>⇒ YES or NO</p> <p>桃太郎はサルにきびだんごを支払う必要がある。</p> <p>⇒ YES or NO</p> <p>両者の主張を契約における権利と義務から考え判断させる。</p>	<p>⑤「クロスロード」の様子</p>  <p>自分だけみんなと違う...</p> <p>3つのトラブルについて自分の考えを「Yes」「No」で示す。</p>	<p>⑥グループ内で意見を伝えあう</p>  <p>「Yes」or「No」を選んだ理由について根拠を示しながら話し合う。</p>

図11 検証授業の例② 第1時「桃太郎とサルとの契約について」の様子

表5 検証授業の例② 第1時「桃太郎とサルとの契約について」生徒の感想（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・「No」を選択する人なんていないだろうと思っていたが1人いたのでびっくりした。自分とちがう考え方があって驚いた。 ・自分の考えだけでなくお互いの価値観や意見を議論し、深く考えることができた。 ・アルバイトの店長に同じことされたら断る自信はないな。 ・桃太郎も自腹できびだんごを支払っているから、サルはそれくらい（洗濯）はやるべき。 ・この時代に法律があれば解決できるけど、なければただの口約束だから守らなくても別にいいのかな。
--

(2) 第4時：「エシカル消費って何だろう」より

単元の最後、第4時は自分自身の生活を振り返り、日々の買物において、そこに潜む社会的課題に気付き、その課題解決のための賢い消費者としてどのような消費行動を行うべきかを追究させることを目標として設定した（図12）。

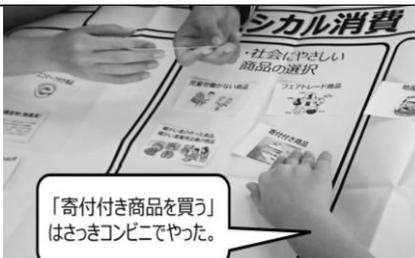
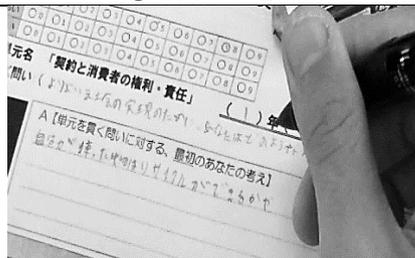
<p>①「商品」×「地球的課題」の関連</p> <table border="1"> <tr> <td>ペット ボトル</td> <td>スナック 菓子</td> <td>く</td> <td>ノート</td> <td>スマホ</td> <td>カレー</td> </tr> <tr> <td>写真① 海底 油田</td> <td>写真② 鉱山</td> <td>写真③ 海面 上昇</td> <td>写真④ 森林 伐採</td> <td>写真⑤ 廃棄物 処理場</td> <td>写真⑥ 皮革 工場</td> </tr> </table>	ペット ボトル	スナック 菓子	く	ノート	スマホ	カレー	写真① 海底 油田	写真② 鉱山	写真③ 海面 上昇	写真④ 森林 伐採	写真⑤ 廃棄物 処理場	写真⑥ 皮革 工場	<p>②エシカル消費の3つの視点</p> <p>環境への配慮 ⇒環境への負担が少ない商品を積極的に選ばう！</p> <p>人や社会への配慮 ⇒人にやさしく社会に役立つ商品を積極的に選ばう！</p> <p>地域への配慮 ⇒地域の活性化につながる商品を積極的に選ばう！</p>	<p>③「10の消費行動」×「自分」</p> <p>ア：フェアトレード商品を選ぶ イ：エコマーク付き商品を選ぶ ウ：寄付つき商品を買う エ：「地産地消」（フードマイレージの削減） オ：被災地への「応援消費」 カ：児童労働がない商品を選ぶ キ：有機農産物を買う ク：手前から商品を選択 ケ：自然エネルギーを利用している商品を選ぶ コ：障がい者の作った商品 障がい者雇用企業の商品を選ぶ</p>
ペット ボトル	スナック 菓子	く	ノート	スマホ	カレー									
写真① 海底 油田	写真② 鉱山	写真③ 海面 上昇	写真④ 森林 伐採	写真⑤ 廃棄物 処理場	写真⑥ 皮革 工場									
<p>6つの商品に関連している地球的な課題を考える。</p>	<p>エシカル消費について具体的な事例をスライドで示し理解を促す。</p>	<p>10の消費行動について、今までに実践したことがあるかを選ぶ。</p>												
<p>④「10の消費行動」×エシカル消費</p> <p>エシカル消費の3つの視点</p> <table border="1"> <tr> <td>【環境にやさしい】</td> <td>【人に社会にやさしい】</td> <td>【地域にやさしい】</td> </tr> <tr> <td>エコマーク 付き商品</td> <td>手前から 商品</td> <td>応援消費</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>地産地消</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>寄付つき 商品を買う</td> </tr> </table>	【環境にやさしい】	【人に社会にやさしい】	【地域にやさしい】	エコマーク 付き商品	手前から 商品	応援消費			地産地消			寄付つき 商品を買う	<p>⑤エシカル消費×カードワーク</p> 	<p>⑥授業のまとめ</p> 
【環境にやさしい】	【人に社会にやさしい】	【地域にやさしい】												
エコマーク 付き商品	手前から 商品	応援消費												
		地産地消												
		寄付つき 商品を買う												
<p>個人で10の消費行動をエシカル消費の視点「環境」「人・社会」「地域」に分類する。</p>	<p>④をグループで共有し根拠を述べながら合意形成を図る。</p>	<p>単元を振り返りながらFQに対する考えを記述する。</p>												

図12 検証授業の例② 第4時「エシカル消費って何だろう」の様子

授業の前半部分では、普段何気なく消費しているモノと地球的課題との関係性を考えさせた。「ペットボトルは石油って家庭科でやったよね」など、「家庭総合」で学んだことを振り返りながら関係性を見つけている生徒もいた。そして、その結果を生徒同士でシェアすることで、大量生産、大量消費、大量廃棄のライフスタイルを続けてきた結果、エネルギー問題や地球環境問題、児童労働など、「家庭総合」で学んだ知識とつなげ、社会的課題に気付くことができた。

展開後半部分では10項目のエシカル消費に関する行動と自分について考察する学習を取り入れた。「手前から商品を選択するなら今すぐできると思う」や「寄付つき商品を買うはさっきコンビニでやった」など、自分の行動と結びつけている生徒や、「応援消費は道の駅で見たことある」や「なんかCMでやってたね」など、普段は意識していなかったことがエシカル消費につながっていることに気付き、自分には何ができると課題解決についても考察している様子が見られた。自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解を深め、よりよい社会の実現に向け、自立した消費者として課題を主体的に追究したり解決しようとする態度をうかがうことができた。一方で、「自分ひとり、1回だけやっても変わらないと思う」や「お金に余裕がある人だけがやればいい」という消極的なコメントもあった。今後も、本単元だけでなく、継続して現代の社会にみられる課題を自分事として捉えられるような授業デザインを行っていく必要があると考える。

授業のまとめ部分では、4回の学習を振り返り、授業を通じて学んだことを思い出しながらFQに対する考えを記述させた。単元始めにはFQに対する考えを持って空欄または一文で記述が終わっている生徒がほとんどであったが、単元最後には学んだことを根拠に考えを書いている生徒が多くみられた（図13）。

FQ「よりよい社会の実現のために、私たちはどのような消費行動を行うべきか」		
生徒	学習前の記述	学習後の記述
A	必要な分だけ買う。	地産地消やフェアトレードなど世界の取り組みにも目を向けていくことも大切だと思った。
B	使える物は長く使う。	自分が買った物は責任をもって使うことが大切で、これを広めることがこれから重要になってくると思う。
C	よくわからない。	自分がどうしたら生産者や動物のためになれるのかを考えながら商品を買えるようになったらいいなと思った。

図13 検証授業の例②のFQに対する考えの変容

4 検証授業の例③における経済のグローバル化について（12月9日～12月17日）

表6 「公共」検証授業の例③の単元構想シート（WS＝ワークシート・GW＝グループ学習のこと）

単元名		第2編 第3章 経済のグローバル化	
単元の目標 【学びに向かう力、人間性】		現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	
単元を貫く問い（FQ）		経済のグローバル化により発生した諸課題に対し、私たちはどのように関わっていくべきか。	
本単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】（本単元におけるB評価の生徒の姿）			
現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			
第1時	題材名	国際分業と貿易	
	本時の目標	〔知〕自由貿易の基礎となっている比較生産費説の考え方を理解する。 〔思〕自由貿易と保護貿易のメリット・デメリットを考察する。	
	本時の問い	貿易はどのような方向に向かっているのだろうか。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	『Made In ○○』ラベルのランキング	どこの国のモノ・製品が人気なのか、その理由なども含めて個人で予想し WS にランキングする。
	展開①	比較生産費について	リカードの経済理論について WS で考える。
	展開②	自由貿易と保護貿易について	自由貿易のメリット・デメリットを GW で考える。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	SDG s シート記入、本時の問いについて考える。
第2時	題材名	経済のグローバル化とは	
	本時の目標	〔知〕グローバル化の進展の速さや、世界経済の自由貿易化の流れ、南北問題の経緯を理解する。 〔思〕経済のグローバル化が日本に与える影響について、他者と協働しながら多角的、多面的に考察したことを論拠を持って表現すること。	
	本時の問い	地域的経済統合が進むことは人々の生活を幸福にすることになるのか。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	ヒト・モノの移動はどれだけ増えている？	クイズを通じてグローバル化の進展の速さを理解する。
	展開①	経済のグローバル化について	世界経済の現状や課題等について WS で考える。
	展開②	南北問題について	南北問題の経緯や現状について WS で考える。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り 発問：あなたが普段いつも身につけているモノは？☞「衣服&スマホ」に気付かせ次の授業につなげる。	SDG s シート記入、本時の問いについて考える。
第3時	題材名	ファストファッション～「衣服」の裏側～ 参考教材【『990円のジーンズがつくられるのはなぜ？』長田華子】	
	本時の目標	〔知〕〔態〕ファストファッションの仕組みとそれに伴う問題点について理解し、その課題の解決に向けて協働して考察、構想しながら自分にできることは何かについて主体的に追究しようとしている。	
	本時の問い	激安ジーンズが作られるのはなぜか。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	フォトランゲージ「縫製工場崩落現場」	写真を見て気付いたことをWSに記入する。
	展開①	バングラデシュに関するクイズ	バングラデシュの労働環境などの現状をWSで理解する。
	展開②	衣服に関連する課題について（動画①）	衣服の製作過程に潜む地球的課題について理解し、感じた気持ちをWSに記入しGWで共有する。
	まとめ	本時の学習内容の振り返り	私達にできることをGWでランキングする。 SDG s シート記入、本時の問いについて考える。
動画①：The 2 Euro T-Shirt - A Social Experiment		NPO 団体 Fashion Revolution より	
第4時	題材名	スマホから考える世界・わたし・SDGs 参考教材【『スマホから考える世界・私・SDGs』DEAR】	
	本時の目標	〔態〕グローバル経済のしくみとそこから派生する社会問題と自分との繋がりに気づき、より活発な経済活動と個人の尊重を成立させるための解決策に向け課題を主体的に追究し解決しようとする。	
	本時の問い	スマホをめぐる問題を改善するために私たちにできることは何か。	
	学習過程	学習項目	学習活動
	導入	スマホの歴史を紐解いてみよう！	GWでスマホに関する4コマ漫画を時代順に並べる。
	展開①	スマホクイズ①〈基礎編〉	10枚のカードを順番に並べ替えながらスマホが自分の手に届くまでの流れをGWで考える。
展開②	スマホクイズ②〈原料編〉	・スマホ1台に使用されている原料について考える。 ・3枚の写真とスマホの繋がりを考える。	
まとめ	本時の学習内容の振り返り	・課題解決に向け大切だと思う事を選び理由をまとめる。 ・SDG s シート記入、本時の問いについて考える。	

本単元では、経済のグローバル化を題材に、教科等横断的な取り組みを行った。「家庭総合」では衣生活を取り巻く課題として繊維産業のグローバル化、衣生活と被服を取り巻く現状を様々な角度から理解させることを目標として授業が行われた。これらを踏まえ「公共」では今後よりよい社会の実現のために、世界各地で見られる地球的課題を自分事として捉え、その解決に向けて自分に何ができるかということを追究させることとした。そこで、「持続可能な社会の担い手」としての意識が萌芽し、本研究における「学びに向かう力」を高めることを目標に、表6のような単元構想シートを作成した。具体的には、FQを「経済のグローバル化により発生した諸課題に対し、私たちはどのように関わっていくべきか。」と設定し、4時間の単元を構成した。

(1) 第3時：「ファストファッション～衣服の裏側～」より

この学習では、前時に経済のグローバル化の進展や、世界経済の自由貿易化の流れ、南北問題の経緯について理解したことを踏まえ、それらに関連する「衣服」の生産過程における諸課題の解決に向けて協働して考察、構想することを目標に設定した（図14）。

導入部分で990円のジーンズを提示し、その理由を発問して問いを抱かせることで「なぜ激安ジーンズが作られるのか」という本時の問いを生徒たちから引き出した。授業展開ではフォトランゲージやクイズなどを取り入れ、自分たちにとって身近な「衣服」が、遠く離れたバングラデシュの縫製工場における過酷な労働状況を招いているということへの理解を深めていった。さらに、ファッションレボリューションに関する社会実験の動画を視聴する部分では、安い衣服の裏側に潜む劣悪な労働環境を知り、「これ本当のこと？」と驚きの声とともに、ファストファッションがもたらす現実を知り唖然とする様子が見られた。

これらの課題解決に向けて行ったランキングでは、グループ内で自分と他者のランキングを比べながらよりよい社会にするために何を優先するべきかななどを議論し、現代の諸課題を主体的に解決しようと考察・構想する様子が見られた（表7）。

<p>①フォトランゲージ</p> <p>地震でもあったのかな？</p> <p>なぜこのような状況に？</p>	<p>②クイズで知識を深める</p> <p>【バングラデシュ クイズ】</p> <p>輸出品に占める衣服類の割合は？</p> <p>ア：20% イ：40%</p> <p>ウ：60% エ：80%</p> <p>こんなに沢山衣服を輸出してるのか…</p>	<p>③衣服に関連する課題の動画</p> <p>Tシャツを買いますか？</p> <p>買う or 寄付する</p> <p>動画の最後にはそれでもこのTシャツを買うか、それとも寄付するか選択するボタンが表示される。</p>															
<p>④「わたしの気持ち」をシェアする</p> <table border="1"> <tr> <td>大変だ</td> <td>困った</td> <td>迷惑だ</td> </tr> <tr> <td>「むなしい」</td> <td></td> <td>「残酷」</td> </tr> <tr> <td>くやしい</td> <td></td> <td>信じられない</td> </tr> <tr> <td>「どうにかしたい」</td> <td></td> <td>「助けたい」</td> </tr> <tr> <td>悲しい</td> <td>おどろいた</td> <td>無力感</td> </tr> </table> <p>真ん中の空欄には自分の言葉を記入する</p> <p>衣服の製作過程に潜む課題に関する資料を読み自分の気持ちを表から選び○をつけグループで共有する。</p>	大変だ	困った	迷惑だ	「むなしい」		「残酷」	くやしい		信じられない	「どうにかしたい」		「助けたい」	悲しい	おどろいた	無力感	<p>⑤ランキング（個人）</p> <p>SNSで発信する</p> <p>個人の考え</p> <p>安衣服は買わない</p> <p>衣服に関連する課題解決のための9つの事項の優先順位を各自で考えランキング（ダイヤモンド型）する。</p>	<p>⑥合意形成（グループ）</p> <p>「安い服は買わない」は1番でいい？</p> <p>私はちがうと思うな…</p> <p>考えを共有しながらよりよい社会にするためにはどの順位がよいか考察、構想し合意形成を図る。</p>
大変だ	困った	迷惑だ															
「むなしい」		「残酷」															
くやしい		信じられない															
「どうにかしたい」		「助けたい」															
悲しい	おどろいた	無力感															

図14 検証授業の例③ 第3時「ファストファッション～衣服の裏側～」の様子

表7 検証授業の例② 第4時「エシカル消費って何だろう」生徒の感想（一部抜粋）

- ・安い服を買わないだけではこの問題の解決にならない。買ったほうがその人たちのためになると思った。
- ・その地域の特産品を世界にアピールできれば、労働条件がよくなり、このような労働者は減るのではないかな。
- ・政治家にこの問題を託すのは少し心配だと思った。何も変わらない気がする…

また、「もっと調べてみたいこと」(表8)について、生徒DとEはその地域の将来性を念頭にその実現可能性も含めて、課題解決に向けた取り組みを構想している。そして、生徒Fはその地域の政府の対応について注目しながら課題解決を模索している。生徒GやHは紛争を防ぐための持続可能なスマホについて考察している。さらに生徒Iは、他の地域においても同じような現状があるのではないかと多角的に考察している。このように生徒の記述内容からは、SDGs 17の目標だけでなく「ターゲット」で指摘されている課題についてより具体的に理解し、その課題解決に向けて考察、構想しようとしていることを読み取ることができる。

表8 検証授業の例③で活用した「SDGsシート」
「今日の授業でもっと調べてみたいと思うことは何か」についての記述内容の一部抜粋

第3時「エシカルファッション～衣服の裏側～」より	
生徒D	バングラデシュの特産品について。特産品を広めれば、そこで働くことができこの様な事は起きないと思う
生徒E	服以外にも労働者に厳しい社会(労働環境)があると思うから、(同じような厳しい労働環境にある商品には)どの様な商品があるかを調べたい。
生徒F	政府がこのことに対してどう考えているのか、何か対応してるのか。
第4時「スマホから考える世界・わたし・SDGs」より	
生徒G	スマホは必要だから、原料を他の金属で代用できないかと思った。鉱物紛争がなくなると思うから
生徒H	レアメタルという高価な鉱石を採掘しているのにも関わらず貧しいのはなぜか。
生徒I	他のアフリカの労働者の待遇はどうなのか。同じようなことがあると思うから。

さらに、検証授業後のアンケートにおいて、授業の振り返りに「SDGsシート」を取り入れることでSDGsについてよく理解できたかという質問に対しては、76%が肯定的な回答をしており、その理由として表9のような意見を述べている。このことから「持続可能な社会の担い手」を育成するための視点としてSDGsを取り入れ、実践を繰り返すことで、持続可能でよりよい社会を構築するため、他者と協働しながら現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度、すなわち「学びに向かう力」を育むことに有効であると考えられる。しかし、24%の生徒が消極的な回答をしており、その理由としては「SDGsシートに書いてあるターゲット内容が、簡単な説明だけなので分かりにくい」や「自分が選んだSDGsのターゲットが正しいのか分からなかった」という感想があった。今後は、「SDGsシート」へ更なる改良を加えることや、自分が選んだSDGsのターゲットとその選んだ理由を生徒同士で共有する時間を設けていきたい。また、これが正しいという「正解」ではなく、多様な考え方に触れよりよい社会のために協働しながら合意形成を図り、「納得解」を求めていくことの価値を抱けるような手立てを行っていきたい。

表9 「SDGsシート」を取り入れることでSDGsについてよく理解できたか

<ul style="list-style-type: none"> ・選択した理由を書くことでSDGsについて深く考えることができた。 ・毎回の授業で全てのターゲットに目を通したし、SDGsに関して詳しく内容を知ることができた。 ・考えるだけでなく何をやる必要があるのかなど具体的に実行しやすいターゲットがあるから理解しやすい。 ・ターゲットをただ選ぶだけでなく理由を書くことで自分の考えを示すことができたから。

V 総括

1 検証授業を通じて「学びに向かう力」を育むことができたかについて

検証授業の例③におけるFQに対する単元最初と最後の考えの記述内容を考察しながら本研究で目指した「学びに向かう力」を育むことができたかについて検証を行う。表6の評価基準に照らし評価した結果が表10である。その中でもA評価の生徒の記述内容を図

表10 検証授業の例③
評価結果 (n=96)

評価	A	B	C
%	19	56	25

17に抜粋し検証を行う。生徒Jは、現実を知ること自分事として捉え、物を大事にするという行動を起こすことで課題の解決に取り組みたいとし、生徒Kは、身近な事から自分一人ではなく他者と協働しながら行動していきたいと述べている。このように、生徒の記述からも単元を通し経済のグローバル化により生まれた課題について主体的に課題を追究したり解決に向けて事実を基に協働して考察・構想しており、「学びに向かう力」が育まれたことが読みとれる。

FQ「経済のグローバル化により発生した諸課題に対し、私たちはどのように関わっていくべきか」		
生徒	学習前の記述	学習後の記述
J	今はよくわからない。	自分たちが当たり前に使っているスマホや洋服などが、どれだけ厳しい状況で作られていることを知ったので、これからは物を大事にし、他人事ではなく色々な事を調べていく必要があると思いました。
K	できることはあると思うけど、何をすればよいのかわからない。	課題に対して自分ひとりが変わっても根本的な解決にはならない。だから、みんなが課題について知り、苦しんでいる人や困っている人の助けになるよう行動したい。
L	自分たちにはどうすることもできない。	私は大きいこと（大したこと）はできないけど、現状を知り、誰かに伝えることや、リサイクルやボランティアなど協力できることからしていきたい。

図 17 検証授業の例③の FQ に対する考えの変容

また、図 2 に示した本研究における「学びに向かう力」アとイを図 18 のような表現に置き換え、生徒にアンケートを実施した。アに対して肯定的な回答であった生徒は 73% から 95% に増加しており（図 19）、その理由として「世界のことが意外と身近なものに関係していると感じたから」や「グループ学習を通してみんなで考えたり世界で抱えている問題について知ることができ色々な人の視点から物事を考えることが出来たから」など、授業の中でも特にグループ学習を通して他者と協力しながら様々な課題について主体的に考えることができたことと記述していた。講義形式の授業とは違い、グループ学習では生徒が自主的に考えて話し合いをしなければならないので、今回の検証授業で取り入れたグループで取り組むアクティビティを繰り返し経験させることで自然と自分で考える力が育まれると考えられる。また、イに対して肯定的な回答であった生徒は 63% から 87% に増加しており（図 20）、「意外と身近なところにも自分に何かできることがあると思ったから」や「ゴミの分別やリサイクルなど、すでにやっていることがあることに気付いた」など、高校生でも世界の課題解決に向け、普段の生活においてできることに気付いたという記述がみられた。今後も「SDGs シート」に改善を加えながら実践を繰り返すことで、よりよい社会を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度、すなわち本研究における「学びに向かう力」を育むことに、有効であると考えられる。

2 公民科と家庭科のクロスカリキュラムを見据えた単元構想について

年度当初の家庭科職員との本研究における年間指導計画について確認・検討を当該職員と共有を図った。検証授業の例②消費者教育の単元では、「家庭科では日常生活で起こりうる消費者トラブルやその対処法、救済のためにどのような法律があるか」という視点を扱うことを家庭科職員から教わった。これに対し公民科では、よりよい社会に形成するためにその法律がどのような役割を果たしているのか、実際に自分事として捉えさせ、公正な社会の形成に協働して取り組む意識を高めることまで求められている。検証授業の例②の実施後に行ったアンケートにおいて、消費者教育について「家庭総合」と「現代社会」で学ぶことで、より一層深く学べたと思いますかの質問に対し、80%の生徒が肯定的な回答をしており、理由としては「家庭科で学んだことを現代社会でより詳しく学べたことができたから」や「二教科で学ぶことができたから」、「家庭科でやったことをもう一回やったり、その逆をやったりするから。」など、両科目で学ぶことでより一層学習内容が深まったと考えられる。

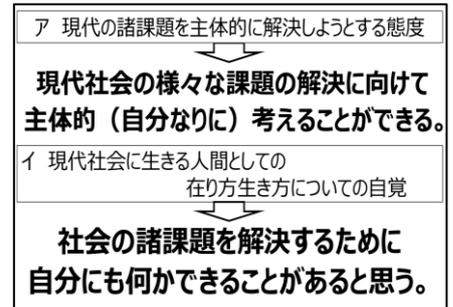


図 18 図 2 ア・イの表現の置き換え

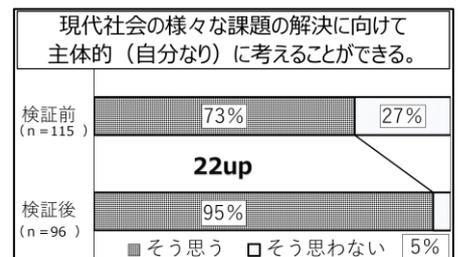


図 19 事前・事後アンケート①

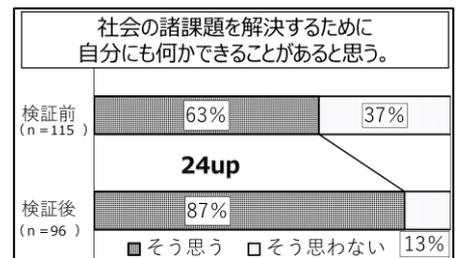


図 20 事前・事後アンケート②

また、「現代社会」の授業と関連がありそうだと思う科目はどれですかの質問に対して 96 名中 39 名の生徒が家庭科と回答している。家庭科職員からは、「改善が必要な部分もありますが、SDGs の視点を取り入れることで、生徒達が興味をもって主体的に授業に参加しているという印象はありました。SDGs に絡めて別のテーマでも実施してみたいです。」との言葉をもらった。これらより、公民科と家庭科において、SDGs の視点を取り入れたクロスカリキュラムは相乗効果が高いことが確認された。さらに、同じ質問で 96 名中 38 名が「情報」と回答し、家庭科の次に多かった。理由として「同じ内容がどちらの教科でも出てきているから」「現代社会に出てくるワードが家庭科にも情報の教科書にも出てくるから」などの記述があった。今後は家庭科のみならず、『解説公民編』においても示されているように、情報科や総合的な探究の時間等との連携も視野に学校全体で教科等横断的な取り組みを見据えた単元構想を行い、その有用性を実証していく必要がある。

また、今回の授業は本校公民（社会）科職員及び他教科の先生方にも参観していただき、授業後には社会科職員と授業に関する研修会を行った（図 21）。社会科職員からは、主体的に学習に取り組む態度をどのような視点で見取ることが適切か、公平に見取るためのタイミングを年間指導計画に位置づける必要がある等、「学びに向かう力」を育むことについて深く議論することができた。それを踏まえて、「学びに向かう力」を育むために他教科とはどのように関連付けていくことがより有効的なのか、



図 21 職員研修の様子

学校全体で教科等横断的な取り組みの必要性を確認することができた。さらに、「SDGs シート」については、令和 4 年度より高等学校において本格的に実施される観点別評価において、評価材料として各科目の特性に応じ工夫改善しながら取り入れてみたいと前向きな意見があった。「SDGs シート」を PDCA サイクルを意識しながら繰り返し実践した成果を感じることができた。

今後は本研究で作成した単元構想シートを次年度さらに充実させるとともに、本校家庭科担当職員等も含め連携して令和 4 年度からスタートする「公共」の授業づくりに取り組み、学校全体で「学びに向かう力」を育てていきたい。

VI 成果と課題

1 成果

- (1) 「SDGs シート」を作成し改良を加えながら、繰り返し実践することで本研究における「学びに向かう力」を育むために有効であることを確認することができた。
- (2) SDGs で指摘されている課題の解決に向けて考察、構想させるグループ学習を取り入れることで、他者と協働しながら現実社会にみられる課題解決に向けて、よりよい社会を築こうとする態度を育むことができた。
- (3) 本校公民（社会）科教諭や家庭科職員と議論を重ね、「学びに向かう力」を育むための授業デザイン及び単元構想等について考えを共有することができた。
- (4) 公民科と家庭科において、SDGs の視点を取り入れた単元構想を通し実践することで「学びに向かう力」を育むことができた。

2 課題

- (1) 「正解」よりも合意形成を図りながら「納得解」を求めていくことの大切さや、根拠を持って考えることができるよう「SDGs シート」のさらなる工夫を行う必要がある。
- (2) 現実社会にみられる課題を自分事として捉えられるような授業デザインを今後も継続して取り入れていく必要がある。
- (3) 公民科と家庭科の両教科の専門性を生かしながら、より効果的に教科等横断的な取り組みが行えるよう、職員研修の充実を図っていく。

〈参考文献〉

- 開発教育協会 2021 『SDGs 学習のつくりかた 開発教育実践ハンドブックⅡ』 開発教育協会
- 田村学 2021 『学習評価』 東洋館出版社
- 沖縄県立総合教育センター 2020 『平成 31 年度 調査研究報告書』 沖縄県立総合教育センター
- 杉浦真理・菅澤康雄・斎藤一久 2020 『未来の市民を育む「公共」の授業』 株式会社 大月書店
- 全国民主主義教育研究会 2020 『今日からできる 考える「公共」70 時間』 清水書院
- 堀哲夫 2020 『一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』 東洋館出版
- 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 2020 『「学びに向かう力」を育む授業事例集』 学事出版株式会社
- 長田華子 2019 『990 円のジーンズがつけられるのはなぜ?』 合同出版株式会社
- 橋本康弘 2019 『「公共」の授業を創る』 明治図書出版株式会社
- 法教育推進協議会 2019 『未来を切り拓く法教育～自由で公正な社会のために～』 法教育推進協議会
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）』 東山書房
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 解説 公民編』 東京書籍
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 解説 家庭編』 教育図書
- 開発教育協会 2018 『スマホから考える世界・わたし・SDGs』 開発教育協会
- 開発教育協会 2018 『身近なことから世界と私を考える授業』 株式会社 明石書店
- 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会 2018 『「公共の扉」をひらく授業事例集』 清水書院

〈参考 Web サイト〉

- SDGs クラブ 日本ユニセフ協会（日本ユニセフ委員会）SDGs ってなんだろう？
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/>（最終閲覧 2022 年 2 月）
- SDGs 169 ターゲットアイコン日本版制作プロジェクト | 朝日新聞デジタル
<https://www.asahi.com/ads/sdgs169/>（最終閲覧 2022 年 2 月）
- 高知県立消費生活センター 消費者教育・副教 消費者の権利と責任について考えよう
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/141602/2020013000055.html>（最終閲覧 2022 年 2 月）
- 静岡県の消費者教育ポータルサイト なるほど！消費者教育 映像教材「知り・考える 消費者市民社会」
http://www.shizuoka-shohi.jp/civil_society/video.html（最終閲覧 2022 年 2 月）
- 消費者庁エシカル消費特設サイト エシカル消費とは
<https://www.ethical.caa.go.jp/ethical-consumption.html>（最終閲覧 2022 年 2 月）